

MUZA  
KAWASAKI  
SYMPHONY HALL

20  
YEARS  
MUZA KAWASAKI  
SYMPHONY HALL

# ほぼ 日刊サマ-ミュ-ザ



Hobo Nikkan Summer Muza



## 流麗で涼やか、 熱を秘めたチャイコフスキー!

7/27 東京交響楽団 オープニングコンサート

©N.Ikegami

祝祭は、今年もまたジョナサン・ノット指揮の東京交響楽団で幕をあける。チャイコフスキーの交響曲シリーズ、昨年の第3番&第4番に続き、今年は第2番と第6番だ。

第2番は、チャイコフスキーとウクライナの関わりを象徴する作品だ。一般的なのは改訂版だが、ノットはあえて初稿版を選んだ。理路整然とした改訂版にくらべ、初稿版は長くて音が多いぶん、鮮度の高いアイデアにあふれ、エネルギーがある。

冒頭で、ホルンがウクライナ民謡にもとづく旋律を美しく奏でる。物哀しく宿命的なこのソロの気分をひきついで、初稿版

の第1楽章の音楽は愁いの影をもち、ドラマティックだ。

オペラやバレエの一部分のような豊かな語り口をもつ初稿版を、ノットは木管などの旋律を歯切れよく歌わせ、見通しのいい明快な響きで聴かせてくれた。勇壮なファンファーレに始まる、改訂版よりも長大で入り組んだ終楽章では、オーケストラを見事にドライブして熱狂的なクライマックスを築き、満場の大喝采に包まれた。

続く第6番『悲愴』でも、ノットをつくる音楽は大きさに見得を切ったり、泣き叫んだりはない。そこにはつねに、洗練されたスピード感と、スタイリッシュな美がある。第2楽章のワル

ツや第3楽章のマーチには、メンデルスゾーンの音楽を想わせる優美さと夢幻性がある。このノブルさも、チャイコフスキーの大切な一面だ。終楽章では重苦しい嘆きの代わりに、澄みきった悲しみが、静かにしみわたる。

流麗で涼やかな響きの、しかし熱い思いを内にひめたチャイコフスキーだった。

(音楽評論家・山崎浩太郎)



オープニング・ファンファーレ

©N.Ikegami



指揮：ジョナサン・ノット

### ご来場者の声

今年も開幕、ノット×チャイコ!!初めて聴く2番と定番の6番は最高の組み合わせ!!のっけから感動させていたできました!!ありがとうございます!!(60代・自由業・浜野マロ) /今年もまたサマ-ミュ-ザにやられて来られてよかったです。チャイコフスキーの初期と晩年の曲を一度に聴けるプログラムも素晴らしい。ノット監督×東響×ミュ-ザでは、いつも新しい楽しみと視点がもたらえて本当に幸せです。(50代・公務員・gomame) /ノット監督=TSOのチャイコフスキーは、昨年聴いたときからずっと感動しています。特に今日の2番は「壮大さ」に、そして6番は「白鳥の歌」に心をわしづかみにされました。(60代・社員・わぐねりあん) /お祭り感満載の大きな4人の作曲家のイラストに迎えられて、今年も始まったなど実感。「ウクライナ」と『悲愴』に込められたメッセージを、演奏の最後の静かな余韻の中で考えさせられ、ちょっとビターな気持ちも混ざった公演でした。今年はこれからどんな演奏と出逢えるのかも楽しみです。(会社員・ぜぶら) /『ウクライナ』は初めて聴きましたが、素晴らしい曲でした。ノット氏の華麗な指揮で、心震える曲、演奏で涙しました。早くウクライナ侵略戦争が終結することを祈ってやみません。(60代・無職・ミッキー)

【明日の日報お休みです】 明日(7/29)は休演日のため、本誌の発行もお休みさせていただきます。次号発行は7/30です。

フェスタサマ-ミュ-ザ KAWASAKI 2024

明後日の公演情報

## 洗足学園音楽大学

巨匠・秋山と若き才能たちが舞う「四季」

ミュージア川崎シンフォニーホール

7.30(火) 18:30開演

『ライモンダ・スイート』  
音楽：グズノフ(『ライモンダ』より抜粋)  
『四季』  
音楽：グズノフ

管弦楽：洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団



指揮：秋山和慶



振付：山本康介



洗足学園音楽大学バレエコース

協力：谷桃子バレエ団  
東京シティ・バレエ団  
牧阿佐美バレエ団

S¥2,000 A¥1,200

TEL・WEB予約：当日16:30まで 当日券カウンター17:30より



7/27開催 東京交響楽団メンバーによるオープニング・ファンファーレ 配信アーカイブ映像公開!



定点カメラ



ノートカメラ有り



MUZA's Recommend

# 夏はサマーミュージック! 秋は「かわさきJAZZ」!!

毎年秋に川崎市内各所で行われるジャズイベント「かわさきジャズ2024」。10周年となる今年のミュージック公演は、世界的ギタリストであるリー・リトナーと盟友デイヴ・グルーシンが、イヴァン・リンスらブラジルの仲間たちと共にやってきます!

リー・リトナーは1970年代前半から活動を続けているレジェンド・ギタリスト。都会的センスのプレイはクールで圧倒的! また、今年の6月に90歳を迎える巨人デイヴ・グルーシンは、ジャズ・フュージョン界を代表するピアニストであり映画音楽の作曲家。リトナーとリンスは2015年のかわさきジャズ以来9年ぶり、グルーシンは2018年のビッグバンドによる「ウエストサイド物語」以来、6年ぶりのミュージック登場です。

そんな二人が、ブラジル音楽界を代表するミュージシャン、イヴァン・リンスを始めとする仲間たちと共に、ブラジル音楽への深い理解と熱い思いを紡ぎます。今年6月に同メンバーでリリースされたCD「Brasil(ブラジル)」も好評発売中。この秋は、極上のリトナー&グルーシン・サウンドをたっぷり堪能ください。(事業課・じ)



音楽監督/ギター  
リー・リトナー

ピアノ/キーボード  
デイヴ・グルーシン

ヴォーカル/キーボード  
イヴァン・リンス

ヴォーカル: タチアナ・パーハ / ハーモニカ: グレゴア・マレ / ドラムス: ウェス・リトナー  
ドラムス: エドゥ・ヒベイロ / パーカッション: マルセロ・コスタ / 他

かわさきジャズ2024

## Lee Ritenour & Dave Grusin with Brazilian Friends featuring Ivan Lins

2024. 11.17 (日) 18:00開演(17:20~ロビーコンサート)

予定曲目

クラヴォ・イ・カネーラ(ミルトン・ナシメント)

ヴィトリオーザ(イヴァン・リンス)

ストーン・フラワー(アントニオ・カルロス・ジョビン)

リオ・ファンク(リー・リトナー) 他



リトナー&グルーシン  
「Brasil」24年6月リリース



チケット S ¥10,000 / A ¥8,000 / U25 各席半額



パートナーショップのご紹介  
エンジョイ!  
川崎!!  
Enjoy Kawasaki



## 「からだ喜ぶ和食ご飯♪」

みなさん、大師線が京急線のはじまりだった、と知っていましたか? 今年から川崎在住になって3か月、通勤しながら赤とクリーム色の車両の愛らしさに癒される毎日です。

京急川崎駅改札からすぐのウイングキッチンに向かい、3階にある「和・カフェchawan」でお昼ごはん。窓際の日差しの明るいカウンターに座れば、電車の行ったり来たりが眺められます。

和定食はお肉もお魚もバラエティに富んだメニューがそろっているけれど、今日は「黄金カレーのみぞれあん」に。小鉢が3つにごはんは白米、雑穀米、じゃこのせごはんから選べます。だんだん暑さが増してきて

いるので、ふわふわカレーのフライにさっぱり味がありがたい。うん、満足。しかしここは和カフェ。スイーツを食べずになんとする! 白玉あずき付きの、自分で点てるお抹茶もいただきました。うーん、さらに満足。

どうやらここではクラフトビールも飲みちゃうようですよ? 次は仕事帰りに寄ってみたいと思います!

(どらやき大使・ま)

## 和・カフェ chawan

ウイングキッチン京急川崎

パートナーショップ特典

飲食代 10% 引き

※「優待券」持参者および同伴者



「自分で点てる」お抹茶(白玉あずき付)  
税抜490円

フェスタサマーミュージック公式サイト  
<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/>

#サマーミュージック

#ミュージック20周年

で検索&投稿

お待ちしております!



X: @summer\_muza

Facebook: @kawasaki.sym.hall

Instagram: @muzakawasaki

YouTube: @kawasakisymhall



① グラズノフ・サクソフォン協奏曲  
いわゆる「クラシックサクソス」の豊かな音色と響きを楽しめる1曲。曲を聴くと広大な自然の中にいるような高揚感と清涼感を同時に得ることが出来ます。耳から栄養をとれる、そんな音色です。曲のイメージカラーは緑です。※個人の感想です。

② ドビュッシー・サクソフォンと管弦楽のための狂詩曲  
いわゆるドビュッシー感が感じられる1曲。こちらはドビュッシーが好きなた人は絶対に「はまる」と思います。1日に何回聴いても飽きない、癖があるのに美味しい楽曲です。曲のイメージカラーは青と紫のグラデーションです。※個人の感想です。

ミュージックで聴いたら最高! もしもそんな機会があつて皆でまともに一緒に聴いたら嬉しいです! 8月3日には9年ぶりの吹奏楽公演も。皆さまのご来場お待ちしております。  
(藤沢出身・道明寺)

## スタッフ日誌

「推しサクソフォン楽曲」  
ミュージック主催公演ではあまりお目にかかることのないサクソス楽曲を、前世でサクソスをちよびり吹いてた私より、2曲ピックアップしてご紹介!